令和４年度　京都府立西舞鶴高等学校　学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（全日制）　（実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
「究理 尚志 敬人」の校訓と｢努力と友情｣の西高精神を教育の柱に据え、めまぐるしく変化していく社会において、変化を前向きにとらえて主体的に行動し、よりよい社会と幸福な人生を創り出せる人を育てる。 「究理」真理を求め勉学に努める 「尚志」高い理想を抱きその実現に努める 「敬人」人を敬愛し誠実に生きる	(1)　「総合的な探究の時間」では生徒の主体性やSDGsの視点で提言できる力を育てる実践を行い、一定の成果が見られた。また、BYODに向けた授業研究や授業の改善のために、公開授業や授業アンケートを実施し組織的に研究を進めた。また京都府立大学との連携協定締結により、今後はさらに外部機関との連携を進め、主体的、対話的で深い学びをさらに充実させていく。 (2)　３年生については、組織的な指導体制の整備を図ることで希望進路に応じた丁寧な指導を進めることができ難関大学の合格者が増加するなど、一定の成果がみられた。これまでと同様に、進路指導に必要な情報、指導方法を共有し、１年次では学力の定着と文理選択を図り、２年次では具体的な希望進路を確立させることを大切にしていく。 (3)　部活動では、地道に努力する生徒と献身的な教職員の支援により、コロナ禍において必要な注意を払いながら活動を行い全国大会や近畿大会に出場した生徒もいた。今後も、学業と部活動の両立のための支援を継続していく。また、社会性等を身につけるために学校行事などの特別活動においても積極的な活動を行うとともに、成人年齢の引き下げに伴い、主権者教育を充実していく。 (4)　新型コロナウイルス感染症拡大防止のため様々に方策を模索したが、学校祭を実施することができなかった。それでも規模等の多少の変更はありながらも生徒会を中心としてその他の学校行事を実施できた。挨拶の励行、ボランティア活動の活性化、人権意識の向上、学校生活になじめない生徒への手立てやいじめ・体罰の防止には今後も重点的に取り組む必要がある。 (5)　地域社会に貢献し、その期待に応える学校づくりを進めている。ホームページ、西高だより、西高理探だより、新聞広報を通して、中学生や地域の方に本校の教育活動の成果がよくわかるよう情報発信を行った。さらに「地域に開かれた学校づくり」を充実していく必要がある。	〔究理〕　主体的に学び考える力を育成する 〇普通科と理数探究科それぞれの特色を活かした「主体的、対話的で深い学び」を実践し、質の高い探究活動を展開する。 〇ＩＣＴを積極的に活用して生徒が主体的に学びを広め深めることができるよう、授業改善や新たな方策を取り入れ、質の高い学力と希望進路の実現につなげる。 〔尚志〕　新たな価値を生み出す力を育成する 〇「勉強も部活も全部」で切磋琢磨する文武両道の校風のもと、一つ一つの達成感を大切にして生徒の自己有用感・自尊感情を育み、「尚志」に向かわせる。、 〇大学や外部機関との連携を一層進めて「社会に開かれた教育課程」の具現化を図るとともに、「未来を展望する力」を育む教育活動を推進する。 〇「18歳成人」を前提に、変化激しい社会の動静に関心を持ち、主体的に判断し行動できる主権者としての資質を育てる。 〇「生徒は学校の証明書」。地域社会から信頼され、小中学生にとっての「あこがれの高校」となるよう、西高生が社会に向けて発信する取組を推進する。 〔敬人〕　多様な人とつながる力を育成する 〇情報リテラシーを高めるとともに日々の挨拶を大切にして友情を深め、多様性と調和を大切にする人権尊重の態度を育む。 〇健康管理と交通安全の啓発と日々の取組を地道に行い、命と安全を守る教育を推進する。 ◯教職員の同僚性を高めて教育の質を向上させ、心身の健康も促進できるよう、職場のＯＪＴと働き方改革を推進する。

評価領域	項目（重点目標）	具体的方策	評価		成果と課題
組織・運営	教職員の資質能力を高め、学校全体の教育力の向上を図る。	全教職員が互いに教え合いながら切磋琢磨し、日常的に自己の教科指導力、生徒指導力、業務遂行力を向上させるなど、自立的な人材育成を図るための職場環境作りと研修の場を充実させる。 分掌部長・教科主任を核に、本校の課題に対する共通理解を深め、新たな提言や知恵を結集させて学校運営・教育活動の一層の活性化を図る。	A	B	【成果】 ・各分掌の観点から本校の課題についての意見をまとめ、共通理解をはかり今後のスクールポリシー策定のための検討を進めることができた。 ・教職員全員でお互いに授業を公開し研鑽を積むことができた。 ・連絡ツールを利用し情報共有することで、教職員全体で密な連携をとり一丸となって指導に取り組むことができた。 ・地域や大学、各種機関と連携を進めて生徒の参加を促すことで、生徒が地域の一員としての自覚を持つ一助とすることができた。 ・学校の情報発信を定期的に行い、地域や中学校に本校の魅力を伝える機会を創出することができた。 ・新型コロナウィルス感染症への対応について教育委員会と連携し、早期の感染拡大防止に努めた。 【課題】 ・1人1台端末導入2年目を前に、さらに効果的な利用法を研究し授業改善を進めて生徒の学力向上を目指す。 ・「地域に開かれた学校づくり」をさらに推進するための取組を進め、本校の魅力を伝えて中学生から選ばれる学校づくりを行う。
	教育活動を充実させ、生徒の学校生活に対する満足度を高める。	生徒には、一段高い目標を持たせ、自己の変容を実感できるよう指導を行う。そのために、主体的・対話的で深い学びや、探究活動を推進し、学力の向上・進路希望の実現・特別活動の充実を図ることで、生徒の生活の自立と学習の自立を促す。 また主権者としての自覚を促すため教科横断的に主権者教育を推進する。 1人1台端末を活用した授業を工夫し効果的な学力向上を目指して研修を推進する。	B		
	学校の取り巻く状況を見据えた学校改革を図る	学校説明会の内容の充実と小・中学校等地域との連携の強化を進める。中学生から選ばれる魅力ある学校づくりを行う。 本校の教育内容・実践等に関して、ホームページ、西高だより、新聞を使って情報発信し「地域に開かれた学校づくり」を推進する。	B		
	学校の取り巻く危機に対して万全の対策を図る	学校の安全を様々な危機から守るための校内体制を作るとともに、京都府教育委員会や関係機関と密な連携を図る。保護者への連絡をスピーディに行う。	A		

教務部	校務運営	教科指導力向上のための取組	公開授業週間を年間２回実施し、他の教員の授業を参観することでお互いの指導力の向上を図る。また、授業アンケートを年間２回実施し、結果をフィードバックして授業改善を図る。	B		B	【成果】　・公開授業週間を２回実施し、保護者にも参観いただいた。また、授業アンケートについても、年間２回を実施し、１回目と２回目の結果を比較しやすい形で返すことができた。　・公開授業ではタブレット活用をテーマに設定した。普段の授業における様々なICT機器の活用方法を教員全体に周知できた。　・学期ごとに評価についての分析資料を提示しながら研修会を実施し、学校全体でよりよい評価について研修することできた。　・時間割変更にきめ細かく対応し、出張による自習を少なくした。 【課題】　・アンケート結果から、生徒が授業でタブレット活用する場面が比較的少ないことがわかった。生徒が活用する場面が増えるような授業をしてもらうために、効果的な研修など行いたい。
		ICT機器活用能力の向上のための取組	タブレット端末等を活用する授業は、公開授業週間以外でも参観しやすい環境を作り、全教員のICT機器活用能力向上に向けて体制を整える。	B			
		主体的に学び考えるための評価方法の工夫	新学習指導要領に基づく評価方法について、研修を行い、主体的な学びにつながる評価方法について検討する。	B			
		基礎学力充実に向けた取組	学習環境の整備に努め、時間割変更等にきめ細かく対応し、授業を大切にする学校を目指す。スタディサプリを用いた個に応じた学習を支援し、全校生徒、全教員での活用を促す。	B			
生徒指導部	特別活動	主体的な生徒会活動	生徒会本部役員・局員、クラス役員を中心に主体的な生徒会活動を通して、各種行事等の特別活動が効果的に実施できるよう支援する。	A	A	B	【成果】 ・生徒会役員が主体となり、学校のPR動画（部活動紹介）を制作することができた。また、学校祭など様々な学校行事で局員やクラス役員が中心となり実施することができた。 ・生徒会役員や局員が舞鶴市長と対談し、日頃生徒が感じていることを伝えるなど新たな取組を行った。 ・３年ぶりにボランティア活動を本格的に実施し、地域企業との清掃活動、西舞鶴駅東口の花壇再生プロジェクトなどに加え、新たな取組として新世界商店街を盛り上げるハロウィン企画や学童ぬいぐるみ企画などボランティア部を中心に多くの生徒が参加した。 【課題】 ・生活規律については、概ね守られているがスカートの長さ、頭髪加工など気になる生徒も見られる。引き続き、丁寧な指導とルール・マナーの向上に努めたい。 ・交通事故件数が４件発生した。街頭での交通安全指導を実施し、交通規則を遵守する意識を高めたい。
		積極的なボランティア活動への参加	多くの生徒がボランティア活動に積極的に参加できる機会と環境を整える。	A			
	規範意識	生活規律の確立	挨拶を大切にし、生徒会役員を中心に挨拶運動を広げ、心のこもった挨拶・適切な言葉遣いができるように指導する。	B	B		
			生徒指導部を中心とした全教職員の指導により、校則・マナーを遵守させ、生徒の規範意識を高める。	B			
	安心・安全	安心・安全な学校づくり	部活動員で構成された自転車安全推進員による街頭での交通安全指導を実施する。	B	B		
	主体的活動	部活動の活性化	新入生歓迎行事での部活動紹介等を活用して部活動の一層の活性化を図るとともに、学習との両立を目指す。	B	B		
進路指導部	希望進路の実現	教育相談的機能の強化	進路検討会を中心として、個に応じた指導の手立てを図り、丁寧なケアに努め、教育相談的機能を高める。	B	A	B	【成果】 ・第３学年部と進路検討会を実施し、各生徒の実態に応じて適切な支援の手立てについて共通認識を図るなど、連携を密にすることができた。 ・職員会議などでの模試分析の機会を通じて、学力実態の把握や今後の指導方針の共有に努めた。 ・校内のICT環境の充実に伴い、対面型に加えてオンラインガイダンスなどを適宜実施した。土曜活用も含め、大学教員や社会人など学校外の優れた人材を有効に活用し、内発的動機づけの一助とできた。 【課題】 ・進路検討会をすべての学年に拡大するなど、学年団とのよりいっそうの連携が必要である。 ・学力層ごとに課題を明確化するなど、生徒の個別最適な学習の支援が必要である。 ・進路行事の情報発信として、ホームページの掲載記事の充実に努めているが、保護者・地域のニーズを意識した更新に努める必要がある。
		各種進路ガイダンスの充実	学校内外の人的資源を有効に活用し、各種ガイダンスを強化することを通じて、生徒の内発的動機づけを促し、自尊感情や自己肯定感の向上に繋げる。	A			
		生徒の学力の一層の向上	各種模擬試験を有効に活用し、模試分析や進学課外等を通じて、生徒が未来を見据え理想と現実のギャップを埋める行動を起こせるよう促す。	B			
		「社会人としての自覚」の醸成	就職希望者への丁寧な職業紹介を行うとともに、労働法規に係る学習、社会人マナー実習などの内定後指導を実施し、社会人としての自覚を一層高める。	A			
	指導力向上	指導方法・指導体制の最適化	高大接続改革のなかで変化していく指導方法をセミナーや研修等によって探究し、生徒に速やかに還元できる体制の樹立を図る。	C	C		
	信頼される学校づくり	各種情報の適切な発信	保護者連絡ツールや本校ホームページを通じて情報発信機能を強化することで、信頼され、選ばれる学校づくりを図る。	B	B		
保健部	心身の健康管理	配慮を要する生徒や心身の健康問題を早期発見及び対応できるような支援体制作り	気になる生徒について学年部や教科担当者と連携し共通理解を図る。また、適切な支援を組織的に行う。	A	B	B	【成果】 ・年間を通じて８回の教育相談会議を開催し、生徒の現状及び情報の共有ができた。部としても可能な範囲で支援を行って行えた。 ・感染症対策は、一定の手順に従い出来ており、自己管理力も高まっている。今後も感染対策や疾病予防を啓発しながら、[withコロナ」の状況下において、生徒が生活しやすいし方策を提示・指導しなければならない。 ・救命講習を実施した。25名参加していただき、心肺蘇生法・AEDの取扱について研修ができた。 【課題】 ・欠席の事由及び取扱方などがあげられ、全体で再度、検討・確認が必要である。 ・日常的な点検・啓発活動には取り組めなかった。
			スクールカウンセラーや専門機関との連携を図り、支援の方向性に沿い共通理解のもと支援を行う。	A			
		感染症・熱中症対策	教職員や生徒への啓発・広報を通じて、予防に努め適切に対応をする。	B			
			健康観察を行い、自己管理力を培う。	A			
		教職員研修等	薬物乱用防止、メンタルヘルス、特別支援に関する研修を実施する。	B			
	安心・安全な学校生活	清掃・美化活動の充実・安全管理	校内美化に対する意識を高め、快適な学習環境作りに務める。また、保健衛生面から安全管理を行う。	B	B		

特色推進部	地域に開かれた学校を創造する	広報活動の充実	理数探究科及び普通科の教育システム等の情報、あるいは本校の特徴的な取組等を、高校説明会や学校公開等の機会を通じて中学生・保護者・中学教員向けに効果的に提供する。	B	B	B	【成果】体験セミナー・オープンスクール・理探Laboのアンケート結果で学校紹介・生徒発表・学科説明などのわかりやすさの満足度が高かった。さらに、ホームページで日々の行事や特別活動などの発信を積極的に行うと共に「西高だより」ではデザインを刷新し、中学生の進路検討時期に合わせて魅力ある内容を効果的に発信した。各新聞社への広報は副校長と連携を図り実施した。また、「総合的な探究の時間」ではタブレットを用いて、デジタル発表を初めて実施した。
			学校生活における生徒の活躍を、ホームページや広報紙等で迅速かつ活き活きと伝える。また、地域の新聞社など情報機関と連携した広報を行っていく。	A			
	新たな価値観を見いだし、未来を展望する力を育む	図書館活動の充実	図書委員会活動等を通じて生徒に図書館の利用を促し、読書活動や調べ学習を支援する。また、芸術鑑賞会など、生徒の心を豊かにする活動を展開する。	B	B		【課題】理数探究科の志願者数が定員に達していないので、志願者増に向けてさらなる魅力の発信が必要だと考えられる。また、タブレットの普及に伴い、今後はデジタル・図書両方の資料を使った学習・探究の支援を模索しなければならない。 「総合的な探究の時間」では各学年に応じた進路実現達成に向けての学びを意識して、より主体的な探究を促したい。
		「総合的な探究の時間」の企画・立案	学年部と協力して普通科の「総合的な探究の時間」の企画・立案を行い、多様な学習方法によって「主体的・対話的で深い学び」を実現する。	B			
スマートスクール推進部	スマートに学べる学校の創造	学びのICT化を通した学力と学習効率の向上	各教科との連携により、授業のICT化を通して学習効率を向上させ、知識・技能だけではなく、学びに向かう力や思考力・判断力・表現力を身に付ける学習が行えるよう支援する。	B		B	【成果】 ・欠席連絡、検温確認、教室予約システムについてTeamsでの一元管理ができるシステムを構築できた。 ・ICTを活用した授業の支援や機器トラブルへの対応を行うことができた。各教科との連携を取りながら授業支援や事例共有を行うことができた。 【課題】 ・端末およびMicrosoftアカウントのパスワード忘れによるリセット対応は合計56件であった。今後適切な情報管理を呼びかけていきたい。
	一人一台学習用端末の実現	安心してICTを使用できる環境づくり	新一年生の一人一台ICT端末の購入に伴う学び方や評価の変革に対応するため、教職員間、生徒や保護者との連絡・調整を綿密に行う。また、情報モラルの啓発にも努める。	B			
	校務のICT化促進による業務効率の改善	校内ネットワークおよびグループウエア等の整備	校内ネットワークおよびグループウエアの整理、利用推進等を通して学校情報のデジタル化を図ることで、業務効率の改善を図り、同時により早く、正確な情報伝達ができるよう努める。	B			
理数探究科	先進的な理数教育	科学体験行事の充実	３年間の科学体験行事の実施方法や発表方法を見直し、体系的な科学体験行事となるようにする。	A	B	B	【成果】 ・連携機関の見直しにより新たな連携先の獲得が可能となった。 ・課題研究について、テーマ設定から研究手法、実験データの扱い方や科学的な考え方について個別に指導することで、質の向上を図ることができた。大学から講師を招き、アドバイスをいただくことで生徒のモチベーションを向上させることができた。 ・発表を通じた言語活動について、夏期実習発表会、海の京都サイエンスガーデン、西高サイエンス・デイをはじめとした様々な発表の場を設けることで、多様な他者に対する発表を行うことができた。 【課題】 ・課題研究や各行事の運営や指導について、教職員間の目線合わせや内容の共有をより広く、円滑に行うことができるよう工夫したい。 ・科学コンテストなど、様々な案内を発信をすることができた。生物学オリンピック（２名）やマス・フェス（２名）に参加した。より多くの生徒が主体的に取り組めるよう促していきたい。
		課題研究の充実	テーマ設定の段階から丁寧な指導を行い、スムーズな研究活動ができるよう指導する。研究内容は、生徒の興味関心を高めるために、また研究をより意義深いものにするために地域資源を活用することを心掛ける。実験やデータの取り方などを適宜見直して、より質の高い課題研究を目指す。また、評価方法を研究し、指導者間の連携と生徒の活動状況を共有する方法を研究する。 また、スーパーサイエンスネットワーク(SSN)京都事業のサイエンスガーデンでの発表も視野に入れた取り組みにする。	B			
		課題研究指導力の向上	大学講師を招いて、教員の意識も高める。中谷医工計測技術振興財団科学教育振興助成を活用して、課題設定段階からの生徒への指導力の向上を目指す。	B			
		発表を通じた言語活動の充実	校内・校外の発表会を数多く経験させることにより、口頭発表・ポスター発表・記録集の作成など様々な形態で体験・研究活動を効果的に他人に伝える機会を数多く設ける。	A			
		科学技術コンテスト参加の奨励	各種科学コンテストの情報を効果的に発信し、自主的に科学を学ぶ生徒を育成する。	B			
	希望進路の実現	高大連携の推進	京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都大学フィールド科学教育研究センターとの協力体制を深め、新しい高大連携の在り方を検討する。	A	B		
		受験指導力の向上	分掌間・教科間連携により、学校全体で取り組む授業力・教科指導力の向上に様々な形で貢献する。	B			
人権教育	人権学習	多様性と調和性を大切にする人権尊重の態度を育み、さまざまな人権問題について正しい認識と問題解決のための行動力を培う。	学年部や各分掌と連携し系統的・計画的に人権学習を推進する。		B	B	【成果】 ・概ね計画にしたがい、各学年の人権学習の実施ができた。特に講演会では、学年の協力により内容の充実したものであった。 ・本年度は、中舞鶴保幼小中高連絡会が縮小した形で開催されるようになり、連携を図ることができた。 ・本校で使用した就職差別に関するワークシートを中丹ブロック会議で共有し、意見交流を図るとともに内容の充実に努めた。 ・府高人権の会議・研修会を通じて各校の取組や人権課題について学ぶことができた。また、全通合同で人権に関わる教職員研修を行うことができた。 【課題】 講演会の日程や講演会の振り返りをどのような形態（手書きorタブレット等）で行っていくかを考えていく必要がある。
			時代のニーズに応じた学習教材・内容を研究・検討し、手法の工夫・改善に取り組む。				
			人権課題の解決の主体としての行動力・実践力を育てる学習を展開する。				
	連携	教育活動を充実させ、生徒の学校生活に対する満足度を高める。	学年部・生徒指導部・保健部等と連携し、いじめの防止や困難な条件を持つ生徒の把握・援助に努め、進路保障を図る。		B		
			中舞鶴保幼小中高連絡会等との地域連携を一層深め、就修学の保障に努める。				
	研修・研究	全ての教育活動を通じて人権教育に取り組む観点から、人権感覚を日常的に育む。	全教職員が人権教育に対する認識を深め、人権意識の高揚を図る。		B		
			研修会等に積極的に参加し、様々な人権課題に対する実践的考察や手法等を身につける。				
			人権教育全体計画に従って、各教科の授業や取組において人権の視点を踏まえた指導を考察し、展開する。				

第１学年部	学習指導	基礎学力の充実を図る。	授業を中心に基礎的な学力を身につけ、主体的に学ぶ生徒を育成する。	B	B	B	【成果】 ・２年次のクラス編成に向けて、ＨＲや学年集会、面談等で丁寧な指導を行い、無事確定することができた。特に、日常的に二者面談を行うことが生徒理解を深めるとともに、生徒との信頼関係の構築に繋がった。 ・学習状況や家庭環境、人間関係など、一人一人異なる多様な悩みを抱えている生徒に対して、学年団での情報共有や他分掌との連携、また家庭との連絡を密にすることで、粘り強く対応することができた。 【課題】 ・課題を抱えた生徒に対しての支援の方法や関係機関との連携について、今後も検討していきたい。 ・iPadの使用については、授業中や休み時間、家庭等において、さらに効果的なものになるように指導していきたい。 ・共通テスト試作問題を踏まえた授業改善に努め、生徒に対応できる力を育みたい。
		進路実現に向けての取組を充実させる。	面談や体験学習、総合的な探求の時間などを通して、生徒本人の自己理解を深め、自らの進路実現に向けて意欲的に行動する生徒を育成する。	B			
	生徒指導	基本的な生活習慣を確立させる。	教室美化を徹底させ、よりよい学習環境を作るとともに、積極的に挨拶を行う生徒を育成する。	B	B		
			18歳成人を前提に、校則や交通ルールなどの生活規範を尊重する態度を育成する。	B			
		課外活動に積極的に取り組ませる。	「勉強も部活も全部。」をスローガンに、何事にも挑戦する生徒を育成する。	B			
	ICT指導	ICTを活用し、主体的な学びを促す。	チームスやスタディサプリ、iPad等を目的に応じて適切に使用する生徒を育成する。	B	B		
第２学年部	学習指導	下位層の基礎学力向上	学年としての学力レベル向上を図るため、下位層の基礎力向上を目指す。	B	B	B	【成果】 ・第２学年の開始時は成績下位層、特に文系コースと理数探究科の学習困難層の低迷が目についた。 ・しかし、文系特進コースと理系コースともに学習に向かう雰囲気が良好であり、それに牽引される形で全体としては学力伸長を果たすことができた。理数探究科も上位層はよく学年全体のレベルを上げるべくリードしてきた。文系コース生徒もよく頑張ってはいるが、学習への取り組みにおいてクラスの雰囲気が低迷したままだった点が今後の課題である。 ・生活面でもまずまずの落ち着きを見せているが、一部非常識な行動をとってしまった案件も発生した。 ・学校祭、研修旅行と、常に新型コロナウイルス感染のリスクを負いながらの厳しい行事関係であったが、生徒たちはよく協力してくれて何とか成功といえる結果を残すことができた。 ・保護者からのさまざまなご意見もいただいたが、逆に「とりあえず学年の先生に話してみよう」という関係性を築くことで、大きな問題に発展する前に対応することができた。
			各教科での授業改善や課題配布とともに、スタディサプリの活用を促して、高校入学以前の基礎学力確認ができるよう、生徒に取組みを促す。	A			
		上位層の発展的学力伸長	国語・英語・数学の完成年度と意識させ、バランスのとれた学力向上を目指す。	A	A		
			理科・地歴公民の選択を早めに意識させ、受験に向けた取組みを早期に開始できるようにする。	B			
	生徒指導	秩序ある学校生活の確立	頭髪・服装等、日常の中で落ち着いた日々を過ごすことができるように指導する。	C	B		
			研修旅行、学校祭等、高校三年間でも大きな行事を成功させる。	B			
	保護者連携	予防的な観点での家庭との連携	問題事象が発生する前に、保護者との連絡を密にして予防的な観点で家庭と連携する。	A			
第３学年部	学習指導	主体的に学び、考える力を育成し、希望進路を実現できる学力を身に付けさせる。	教科担当者との連携を密にし、各学級の学習状況や個々の生徒の様子を共有し、特に学習に不安を持つ生徒に対して、個人面談をするなど、丁寧に指導する。	B	B	B	【成果】 ・各教科担当や進路指導部と連携し、希望進路の実現を目指して、学習、進学課外、模擬試験、推薦指導などを計画的に進められた。また、丁寧な面談を通じて、個々の能力や適性に応じた進路指導を行えた。 ・生徒がリーダーシップを発揮し、後輩に知識と経験を伝える場面が多くあり、学校祭や部活動等を通じて生徒の自主的、自発的態度を培えた。 ・多くの生徒が学校内外の諸活動に参加し、自身の見識を高め、自信をつけることにつながった。 【課題】 ・スタディサプリやベネッセマナビジョン、河合塾Kei-Naviなどを効果的に活用できた生徒が多かったが、一部あまり活用できていない生徒もいた。個に応じた適切な進路指導や情報共有に活かせるように、より多くの生徒が活用できる方法を考えていきたい。 ・進路未決定の生徒も一部いるので、最後まで丁寧な指導を継続して行っていきたい。
			模擬試験等を通して自己の実力を把握させつつ、進路情報を提供し、学習意欲を高め、希望進路の実現を図る。	B			
	進路指導	未来を展望する力を育成し、進路実現に向けた取組の充実を図る。	ＩＣＴを活用して進路に関する情報を提供し、希望進路（目標）を達成させる。	B	B		
			将来を見据えた進路希望を持たせるとともに、その把握に努め、個に応じた適切な指導を行う。	B			
	生徒指導	他者を尊重する態度を育成する。	集団の中の一人として自覚を持ち、ルールやマナーを守ることの大切さを意識させる。	B	B		
			様々な教育活動を通じて、挨拶の励行や相手の立場を考え思いやりのある行動をさせる。	B			
	保護者との連携	生徒と保護者双方の考えを把握する。	保護者面談等を行い、家庭との連携を密にし、家庭の様子や学校での状況を交流し、生徒の指導に活かす。	B			

<table>
<tr><td rowspan="5">事務部</td><td rowspan="2">教育環境の整備</td><td>生徒及び教職員が安全・安心な学校生活が送れるように教育環境を確保する。</td><td>校舎・施設等の適正な維持管理に努める。また、施設設備の危険箇所の早期発見及び早期対処を行う。
ネット環境の充実に努める。</td><td>B</td><td rowspan="2">B</td><td rowspan="5">B</td><td rowspan="5">【成果】
・技術職員と連携をし、安全・安心な教育環境の整備に努めることができた。学校教育活動継続事業費や理科教育設備充実費等を活用し、校内のネット環境の充実、特色のある教育活動を進めることができた。
・窓口対応、電話対応ともに丁寧な対応を心がけることができた。
・就学支援金等について成人年齢引き下げにより申請書の記入方法等が複雑になったが、申請者に分かりやすい案内を心がけ、大きな混乱がなく事務を迅速に進めることができた。また、BYODに関する事務についても今年度初めての事務であったが、他分掌とうまく連携を取り、円滑に進めることができた。
・オンライン研修等活用しながら会計事務に関する知識を深め、適正に会計事務処理を進めることができた。

【課題】
・施設設備の危険箇所等について、複数職員で定期的に施設点検を実施し、危険箇所の早期発見・早期対処を行う。計画的かつ効果的に予算執行を行う。
・会計事務において、事務処理遅延、軽易なミスが生じないよう職員同士の相互チェックに努めたい。</td></tr>
<tr><td>学校の特色化を進める設備・備品の充実</td><td>探究活動や理数教育等の特色のある教育活動を進めるための効果的な予算執行に努める。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>信頼される学校づくり</td><td>学校の窓口としての接遇向上</td><td>生徒、保護者、来客者及び地域住民に対する窓口対応、電話対応等明るく丁寧な対応を行う。</td><td colspan="2">A</td></tr>
<tr><td>修・就学支援</td><td>生徒の修・就学支援の充実</td><td>保護者・生徒に対する十分な案内周知と丁寧な対応を行い、就学支援金や各種奨学金事務を円滑に実施する。
生徒１人１台学習端末導入事務・支援制度事務を円滑に実施する。</td><td colspan="2">A</td></tr>
<tr><td>会計管理</td><td>適切な会計事務の執行</td><td>職員相互のチェック体制を強化し、給与、旅費及び会計事務等の適正な処理に努める。
会計事務研修への積極的参加に努める。</td><td colspan="2">B</td></tr>
<tr><td colspan="2">学校関係者評価委員会による評価</td><td colspan="8">西舞鶴高校に対する保護者や地域住民の関心は高く、期待も大きい。コロナ禍で様々制限されるなか、工夫して教育活動を継続した点が評価できる。1人1台端末の利活用や18歳成人となる高校生の教育について、授業や活動を工夫・進化させ、生徒の希望進路の実現だけでなく、安心安全の保障された学校を維持して欲しい。また教育活動についての情報をより活発に発信することで、地域からの学校理解が 高まるようにし、地域の基盤を担う教育機関として一層の高みを目指す教育活動に励んでもらいたい</td></tr>
<tr><td colspan="2">次年度に向けた改善の方向性</td><td colspan="8">・京都府立大学や舞鶴市、市内企業など、外部関係機関との連携をさらに強め、探究的な活動を中心に主体的、対話的で深い学びを深化させる。
・1人1台端末導入2年目を前に、さらに効果的な利用法を研究し授業改善を進めて生徒の学力向上を目指す。
・「地域に開かれた学校づくり」をさらに推進するための取組を進め、本校の魅力を伝えて中学生から選ばれる学校づくりを行う。</td></tr>
</table>

評価　Ａ：十分達成できている（目標以上の成果が得られた）　Ｂ：ほぼ達成できている（ほぼ目標通りの成果が得られた）　Ｃ：達成できているとはいえない（成果はあったが、目標に達していない）　Ｄ：ほとんど達成できていない（ほとんど成果がなかった）